

令和 6 年度第 1 回日野市指定管理者候補者選定委員会 議事録

1 概要

日 時	令和 6 年 8 月 14 日 (水) 14 時 00 分から 17 時 00 分まで
場 所	日野市役所本庁舎 4 階 庁議室
出 席	【委員】村田委員長 (子ども部長)、赤久保副委員長 (企画部長)、竹村委員 (総務部長)、滝瀬委員 (子育て課課長補佐) 【応募事業者】社会福祉法人雲柱社、B 社
事 務 局	(子育て課) 永関主査 (企画経営課) 松井主幹、永尾
傍 聴 者	なし
議 事	<ul style="list-style-type: none">● 選定委員会の概要について● 委員長・副委員長の選任● 審査手順について● たまだいら児童館ふれっしゅ指定管理者の選定について<ul style="list-style-type: none">➢ B 社➢ 社会福祉法人雲柱社
記 録 作 成	(企画経営課) 永尾
配 布 資 料	応募書類一式、採点表等審査資料一式

2 要点録

(1) 選定委員会の概要について

○ 事務局

委員として、日野市指定管理者候補者選定委員会設置要綱に基づき、子育て課長が任命されているところ本日欠席のため、「その他市長が必要と認める者」として子育て課課長補佐を追加的に委員に任命したのでご了承いただきたい。

○ 事務局

選定委員会の概要について説明。

(2) 委員長・副委員長の選任

○ 事務局

委員長は日野市指定管理者候補者選定委員会設置要綱に基づき主管部長である子ども部長とした。副委員長は互選により、企画部長とした。

(3) 審査手順について

○ 事務局

本日の進行について説明。

■ 委員

採点基準以外で財務状況などの採点項目はあるか。別に採点するのか。

○ 事務局

大項目 3「事業計画に沿った管理を安定して行う物的及び人的な能力を有していること」の評価項目

①「安定したサービスを提供するための職員体制、職員研修が実施できるか」において考慮の一要素としていただく。

その他本採点表以外に採点項目はない。

(4) たまだいら児童館ふれっしゅ指定管理者の選定について

① 施設概要説明

○ 施設所管課(子育て課)

施設の概要及び運営方針等について説明。

■ 委員

平成 17 年 4 月から指定管理者制度が導入され、この令和 6 年度末で指定管理期間が満了するが、この間に何度指定管理者の更新があったか。

○ 事務局

平成 21 年度、平成 26 年度に更新をしている。いずれも公募だったが、応募は社会福祉法人雲柱社の一社のみだった。

■ 委員

施設の特性を生かしたサービスとして、主管課から開館時間の延長を求めているか。

○ 施設所管課

主管課としては、開館時間の延長、休刊日は現在の開館時間、休館日から変更はないと想定している。

② プレゼンテーション及び質疑応答 (B 社)

<B 社入室>

◇ B 社

提案内容についてプレゼンテーション、説明。

■ 委員

職員体制について、常時配置として職員何名がいる想定か。

◇ B社

8名を配属し、シフトの中で常時最低2名が配置される。責任者又は副責任者+1名の体制を基本としている。

■ 委員

御社は他の市施設の管理も受注されているが、そこでの実績がある事業はあるか。また、本児童館の事業と重複するような取組はあるか。

◇ B社

児童館とは少し性格が異なるが、実践女子大学の学生ボランティアによる中高生に向けた学習支援などを実施している。

児童館の提案にある子育て講座や、声優による読み聞かせをするお話玉手箱事業などは、他の受託施設でも展開をしていきたいと考えている。

■ 委員

この分野のニーズは様々であり、例えば自習する方など、ほっといてほしい、という子どももいるかと思う。そうした子どもとの関わり方、交流などについてはどのように考えているか。

◇ B社

自習している子ども、ずっと続けているわけではなく、息抜きをするタイミングがある。そうした息抜きの時間に声をかけるようにしている。そうした会話から、その子の状況、求めるものを、友達からの情報なども含めて少しずつ拾い上げるようにしている。

また、中高生になると自分をしっかり持っている。そのため、職員が変わると身構えてしまう。一足飛びに踏み込まず、徐々に関係を作っていくことを心掛けている。

■ 委員

児童館に来たことのない中高生への事業展開も必要。どのようなアプローチを考えているか。

◇ B社

スマホがほとんどの中高生に普及してきた。

ホームページ、YouTube やインスタグラム等の SNS を活用し、幅広く児童館のことを発信していきたい。

一方で、チラシ等のアナログ媒体が効果的であることもある。学校に配ったり、学校に行けない子には別途他の施設にもパンフレットやおたよりを設置、掲示したりしていきたい。

■ 委員

職員の採用について。

5年間継続して事業を継続するためには、人材確保が必要。現在の採用状況や今後の採用候補などがあれば展望を教えてください。

◇ B社

保育などの有資格者を一つの部隊で人材確保、管理をしている。

人材確保については問題なくできると考えており、実際に他市事例でも人材不足は起きていない。

■ 委員

利用者の声を聴く、ということがよく言われるが、具体的にはどのような対応をとっておられるか。

◇ B社

アンケート箱を設置し、アンケート自体もどのような内容がいいかも聞きつつ、回答は職員だけでなく来館者にも開示していきたい。

例えばゲームがやりたい、というような対応可能なものがあれば、ミニゲームの設置など、できる限り対応をしていきたい。

■ 委員

ボランティアや地域の方との協力が必要になってくる。

地域の方の育成等については方針はあるか。

◇ B社

ボランティアの方、学生など、地域の団体などとの関係性を築いたうえでお声がけをしている。

面談なども重ねながら、子どもたちへのかかわり方をすり合わせていながらご協力をいただきたい。

大きなイベントではボランティアスタッフをお願いすることもある。そうしたときも必ず説明会を実施し、きちんと対応をご理解いただいたうえでご協力をいただく。

学生さんについては、学習支援の中で年間を通じて関わっていき、子どもたちのことで気づいたことがあれば学生の方とも情報共有をしていきたい。

■ 委員

学習支援以外の、中高生への支援の新しいニーズがあらうかと思う。

どのように捉えていらっしゃるか。

◇ B社

E ゲームスペースを設けている。

中高生会議を実施しても、会議の場となるとなかなか参加いただけないが、ゲームの中でならしたいことを話してもらえたりする。

総じて、大人数でのコミュニケーションが苦手な子が多い印象があり、その壁を壊していきたいと考えている。

「みんなで何かやろうよ」という流れを作り、ボランティア精神を育み、地域に主体として戻っていく、という循環を作りたい。

関係を深めながら集まって、何かをしていくこと、が今後の課題と考えている。

■ 委員

収支計画における施設の利用料金とは、音楽室の使用料か。

◇ B社

音楽室の利用料。現在の運用ルールどおりと考えている。

<B 社退室>

③ プレゼンテーション及び質疑応答（社会福祉法人雲柱社）

<社会福祉法人雲柱社入室>

◇ **社会福祉法人雲柱社**

提案内容についてプレゼンテーション、説明。

■ **委員**

常時何名が配置される想定か。

◇ **社会福祉法人雲柱社**

正規職員 4 名が配属され、会議等で局所的に減ることはあるが、概ね 3 名の常駐となる。

土日は遠方からの来館、水曜日は学校が早いなどがあるので、そうした時間帯は厚めの人員配置をする。

■ **委員**

月の利用者数は、現在 2,000～3,000 人程度だと思う。適正な利用者数としてはどのくらいと考えられるか。

◇ **社会福祉法人雲柱社**

総数としては 3,000 人程度、今くらいが適正と思われる。

各時間帯に均等に来てくれればいいが、幼稚園が終わった後の時間帯など、集中する時間がある。コロナ前は多すぎた時期もあり、安全管理上の不足もあった。

■ **委員**

中高生向けの事業としては、どのようなものがあるか。

◇ **社会福祉法人雲柱社**

中にジムスペース、図書コーナーなどを設けており、利用者のニーズに応じた棲み分けがされている。

■ **委員**

10 年前と比較して子どもたちのニーズはどのように変わっているか。

◇ **社会福祉法人雲柱社**

以前は、外で遊びたいという声が多かった。今は、Wi-Fi がないか尋ねられることが多い。

マンションの共有スペースでゲームをしていた子たちが児童館に来たり、外で遊んでいたら注意をされたから、ということで児童館に来たりというケースもある。

■ **委員**

いろんな子どもがいる。相談や関係機関につなぐために、どのような工夫をされているか。

◇ 社会福祉法人雲柱社

相談というのは、そこまで行くのにとっても時間がかかる。

話しかけるな、という雰囲気の子もいるが、まずは積極的に挨拶からアプローチをする。

職員個々人にもカラー、相性があり、その子にとって話しやすい職員が当たればそこからフォローする。会話の内容は職員内で共有をして、一緒にトレーニングしたりゲームをしたりと時間を共有していくことで少しずつ話してくれるようになる。

■ 委員

居場所を探している中高生へのアプローチが課題の一つ。どのように考えているか。

◇ 社会福祉法人雲柱社

近隣の中高生とは非常にいい関係を築けていると感じている。

例えば、キャンプイベントに来てくれていた子が、実は不登校の子だった、というケースなど、児童館には来れる子もいる。

SNSでの発信に反応してくる子もいるので、そうしたところからアプローチをしている。

■ 委員

児童館もその機能、業務が多様化している。例えば、福祉的課題への対応も求められる中、そうした機能の対応策をどのように検討されているか。

◇ 社会福祉法人雲柱社

解決できるところは解決していくが、専門的な知識がないと対応できない課題は、市と共有しながら協力して対応をしていきたい。

■ 委員

児童館だけが居場所にならないように、というご説明があった。その点について、対応策などは。

◇ 社会福祉法人雲柱社

子どもたちの自立のためには、児童館に依存してはいけない、と考えている。

児童館だけでその子の花が咲くようになってしまうような関わり方をしてはいけないと考えており、社会の中に巣立っていけるような接し方を心掛けている。

■ 委員

地域連携のコツやノウハウは何かあるか。

◇ 社会福祉法人雲柱社

細々としたお付き合いの積み重ねだと思っている。

イオンを通ると誰かに会い、あいさつをする。そうしたコミュニケーションを大事にしている。

■ 委員

子どもたちの声を聴くのに大事なことは何か。

◇ 社会福祉法人雲柱社

職員に思いを言える子、言えない子がいる。

意見を表明できる子の声だけを聴くのではなく、意見にならない意見を関わりの中から見出し、引き出していくことを心掛けている。

■ 委員

そうした対応には専門的な知見も必要になってくると思う。

5年間の指定管理期間にわたり確保し続けるのは大変だと思うが、どのような対応を考えているか。

◇ 社会福祉法人雲柱社

人材難の状況は確かにある。

しかし、当法人では東エリアから西エリアまで幅広く働ける環境が整っているほか、児童館だけでなく、家庭支援、障害児、保育園等様々なブロックがあるので、多様な勤務が可能なことが強みとなっている。

■ 委員

障害者差別解消条例を施行して、障害者に対する配慮が義務化されている。そうした中、障害者にはどのような配慮をされてきたか。

また、障害をもつ子どもからの需要はあるか。

◇ 社会福祉法人雲柱社

各プログラムに障害者の方がいらっしゃることもある。

必要な場合には、柔軟に計画を変更できるように配慮している。

需要は、よく放課後デイなどで中学校の支援級の生徒の利用を頂いている。

■ 委員

組織体制の項に、専門的な資格についての記述がある。常勤される職員としては例えばどのような資格をお持ちか。

◇ 社会福祉法人雲柱社

福祉系大学を卒業した職員、教員免許、美術の講師、社会福祉主事、産業カウンセラーなどがいる。

<社会福祉法人雲柱社退室>

④ 主管課質疑応答

■ 委員

最低2名の配置という事業者があったが、それで良いのか。

○ 施設所管課

仕様書上は、3名以上ということになっている。

一時的に外すことはあっても、原則としては3名以上。

■ 委員

指定管理料の関係では、いずれもそれほど違いがないが、上がっているか。

○ 施設所管課

10年前と比べれば右肩上がりの状況ではある。人件費がどうしても上がっている。

■ 委員

自主事業の経費が入っているが、これは主管課として問題ないのか。

○ 施設所管課

キャンプ等に要する費用は認めている。

通常の業務の範囲内であれば問題ないと考えている。

■ 委員

そうした場合、事業の要否を主管課として判断しているか。

○ 施設所管課

そうした交渉は過去にしていなくても、可能と考えている。

■ 委員

開館時間を延ばす提案をされているが、その場合コストがかかってしまうのでは。どのように考えているか。

○ 施設所管課

従来通りの指定管理料を踏襲すると、現在の19時から延ばすと他の対応も必要になるので難しい。他の児童館も19時までにはやっていないところもあるので、そこも考慮が必要。

延長時間を公営でもお試しでやったことがあるが、ニーズがそれほどない。それを考えても、19時が限界ではと考えている。

■ 委員

他市での経験については何点とカウントすべきか。

○ 事務局

B社は4点、社会福祉法人雲柱社は5点となる。

■ 委員

施設利用料の関係で、児童館自体は無料で、音楽室の利用料は問題ないのか。

○ 施設所管課

今後の対応を含め、確認して検討したい。

<施設所管課退室>

⑤ 意見交換

■ 委員

特になし

⑥ 採点

■ 委員長

採点、提出いただき次第終了。

(閉会)